

# 東シナ海ブロック水産業情報

No. 119(2022年10月~12月)

## 増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
	<p>○筑前海 【カキ養殖】 ・カキのへい死状況は、平年並み。</p> <p>○有明海 【ノリ養殖】 ・10月26日(水)の午前6時出港で採苗は開始された。採苗は10月29日までに概ね終了した。芽付きは適正から厚め。 ・10月19日以降、小型珪藻類の赤潮により低栄養塩の状況が継続したため、河口域、岸寄りの漁場にノリ網を重ねて育苗した結果、ノリの色調、生長、生産に個人差及び地域差が発生した。 ・色落ちが解消されることなく、秋芽生産は12月30日までで0~4回の摘採で終了。生産枚数1億9,662万枚(過去5年比51%)、生産金額25億2,856万円(過去5年比51%)、平均単価12.86円(過去5年比-0.08円)。 ・冷凍網の張込み開始日は1月3日午前6時出港で開始された。</p> <p>○豊前海 【カキ養殖】 ・順調に経過。 【栽培関連】 ・「かぐや装置」によるアサリ稚貝生産、網袋による干潟での放流試験を実施中。</p>	<p>○有明 ・マガキ養殖(有明海大浦地区) 今年度は、夏季に高水温が一時期みられたものの、極端な低塩分化やシロボヤ等の大量付着といったカキの生産に不適な状況は発生しなかった。このため、生産量は昨年度の3倍の約34トンを見込んでいるところである。令和5年度の生産分については、2月上旬に種カキを搬入し、その後抑制棚で抑制する予定である。 ・ノリ養殖 今年度は、10月26日の採苗直後から、漁場全域で珪藻赤潮によるノリの色落ち被害が発生し、現在も継続中である。このため、3回目入札までの生産は、枚数・金額ともに平年の50%程度の状況である。</p> <p>○玄海 ・アカウニの種苗生産実施中</p>		<p>マダイ:マダイイリドウイルス病、エドワジエラ症 ブリ:ノカルジア症、II型αレンサ球菌症 カンパチ:II型αレンサ球菌症 シマアジ:II型αレンサ球菌症</p>

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
<p>・10月上旬から中旬にかけ鹿児島湾で <i>Chattonella marina</i> による赤潮が発生した(漁業被害なし)。</p>	<p>・令和4年のシラスウナギ種苗生産を終了。シラスウナギの最終生産尾数は560尾。</p>		